

【事例紹介】

留学生地域交流事業について

－留学生地域交流シンポジウムを中心に－

日本学生支援機構留学生事業部留学生事業計画課

支援計画係員 成瀬 由梨

支援計画係長 住吉 聡一

課長補佐 平野 由希

課長 山本 剛

(Student Exchange Programs Planning Division, Student Exchange Department, JASSO)

キーワード：外国人留学生の受入れ、地域交流、助成事業、グローバル化

はじめに

改元によって、日々作成する文書の日付の元号が「令和」にかわった頃、平成13年度から実施している留学生地域交流事業にあらたな側面を加えることが、課内で持ち上がった。

公益財団法人中島記念国際交流財団のご支援のもと、留学生地域交流事業は、毎年度、全国各地の大学から留学生支援団体まで幅広い立場の方々からの申請があり、また、採択された事業は確実に実施されてきた。これまでに採択された事業は、延べ600件以上に昇り、また、採択された団体は、230団体以上に及んでいる。

一方で、留学生地域交流事業は、これら確固とした実績がありながら、その成果の共有方法は本機構が主体となるものとしては、各団体からの実績レポートのホームページ上での公開¹に留まっており、多くの方々より情報共有に関してのご意見も寄せられていたところであった。また、本機構職員による採択事業の訪問調査²の際にも、各地での取組みを共有していくべきであると実感していた。

これらの状況を踏まえ、留学生地域交流事業の成果を敷衍することによって、各団体における事業の質の向上及び充実した事業への支援を目指すとともに、留学生受入れのための活動及び関係者間のネットワーク構築の促進を目的として、2020年度留学生地域交流事業の募集期間中に、2019年度に採択された事業を中心として、日本全国津々浦々で日夜弛まらずに、国際交流、留学生支援をおこなって

¹ 留学生地域交流事業 採択団体の実施報告

<https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryujigyou/index.html>

² 2019年度留学生地域交流事業 訪問調査報告

<https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryujigyou/2019.html>

いる方々の経験を広く共有するためのイベントを計画することとし、令和2年2月21日（金）、東京国際交流館プラザ平成 国際交流会議場にて、留学生地域交流シンポジウムを実施するに至った。

留学生地域交流シンポジウムの概要

当日のプログラムは、「事例紹介」と「パネルディスカッション」を挟むかたちで、留学生支援事業の概要と2020年度の募集に係る説明を配置した。これは、冒頭での本機構の留学生支援事業における留学生地域交流事業の位置付けの明確化と同事業の枠組みの再確認を意図し、また、2020年度事業の申請書作成の際に助けとなるような説明で締め括ることを想定したものである（表1）。

表1：留学生地域交流シンポジウム プログラム

13:00-13:10	開会挨拶 米川英樹 / 独立行政法人日本学生支援機構 理事
13:10-13:20	事業説明
13:20-13:40	事例紹介① 金田陽治 / 成城大学 国際センター 課長 “成城大学で受け入れる交換留学生と地域住民との国際交流の実際について”
13:40-14:00	事例紹介② 袴田麻里 / 静岡大学 国際連携推進機構 国際教育推進部門 准教授 “地域での国際交流と日本人学生のエンパワーメント”
14:00-14:20	事例紹介③ 宮崎浩志 / 特定非営利活動法人国際社会貢献センター 常務理事・事務局長 “国際交流館（東京、兵庫）を拠点とする留学生地域交流事業”
14:20-14:40	事例紹介④ 蔡聖錫 / 公益財団法人環日本海経済研究所 経済交流部 経済交流推進員 “留学生による新潟県企業視察ツアーに関する報告”
14:40-15:00	休憩時間
15:00-15:20	事例紹介⑤ 鹿志村浩行 / 公益財団法人茨城県国際交流協会 事務局長 “茨城県留学生親善大使の任命と交流推進”
15:20-15:40	事例紹介⑥ 信田グレチェン / 国際大学 学生センター事務室長 “国際大学の「多文化ふれあいコミュニティ事業」について”

15:45-16:30	パネルディスカッション 「留学生地域交流に係る課題と展望」 ファシリテーター 中本進一 / 埼玉大学 人文社会科学研究所 教授
16:30-16:40	2020年度の募集について
16:45-17:30	交流会

(1) 「事業説明」と「2020年度の募集について」

「事業説明」では、主に公募内容（目的、申請団体、助成事業実施期間、助成対象事業、助成額、助成件数、申請受付締切日）、特に助成対象事業の4つの事業区分（表2）について言及した。

「2020年度の募集について」では、近年の申請状況から事業区分（4）外国人留学生等の各種ネットワーク整備のための事業の詳細や助成金の有効活用を踏まえ、よくある質問を交えながら申請書の記載方法について説明した。

表2：助成対象事業 事業区分

<p>(1) 国際理解教育の推進のための外国人留学生を活用した事業</p> <p>初等中等教育機関・高等教育機関・地域住民等に対する異文化理解教室、国際理解講座、日本人学生等のグローバル人材育成支援等、外国人留学生を活用した国際理解教育を推進する事業</p>
<p>(2) 外国人留学生の生活支援体制整備のための事業</p> <p>住居サポート、生活相談・カウンセリング、日本語教育、日本文化教室、就職支援活動等、外国人留学生及びその家族に対する生活支援事業</p>
<p>(3) 外国人留学生と地域住民との交流推進のための事業</p> <p>地域における文化体験や交流活動等、外国人留学生と地域住民との交流を推進する事業</p>
<p>(4) 外国人留学生等の各種ネットワーク整備のための事業</p> <p>日本留学に係る情報の提供、在日外国人留学生・帰国外国人留学生の人的ネットワーク構築のための交流事業やフォローアップ等、留学生支援に係るネットワークの整備事業</p>

(2) 「事例紹介」

事例紹介を担当して頂いた団体は、特色ある事業を実施している団体のうち、地域・法人・事業内容の面で、できる限り多様性を考慮して選考した。法人の面では、大学（国立・私立や学生数）や公益財団法人等の別。事業内容の面では、上述した事業区分の別を重視した。ただし、地域については、招へいのしやすさから、比較的東京に近い団体を優先した。

各団体の発表においては、成城大学の金田陽治氏からは、学生と地域住民を対象とした講演会やワークショップの開催、地域の国際交流イベントでの情報発信等、これまでの採択事業を中心に、小規

模である大学の特色を生かした地域での密度の濃い交流事業への取り組みをお話頂いた。静岡大学の袴田麻里氏からは、県内の留学生と日本人学生を対象とした交流事業「話っ、輪っ、和っ！」について、学生による実行委員会の活動や参加学生及び静岡県全体への本事業の効果、また留学生に対する日本人学生の参加傾向と課題をお話頂いた。特定非営利活動法人国際社会貢献センターの宮崎浩志氏からは、組織の活動概要及び留学生支援事業についての紹介があり、主に本機構が所有する東京国際交流館と兵庫国際交流会館での留学生・家族への生活支援や交流活動の具体的な取り組みをお話頂いた。公益財団法人環日本海経済研究所の蔡聖錫氏からは、留学生への就職支援について、国際人材フェアや企業視察ツアーの実施結果に基づき、留学生の地元企業への就職に向けた取り組みの成果や企業とのマッチングへの課題をお話頂いた。公益財団法人茨城県国際交流協会の鹿志村浩行氏からは、県や関係機関との連携による継続的な事業について、採択事業の茨城県留学生親善大使、国際理解教育講師等派遣事業、クエスト茨城留学生研修における助成金の活用で得られた成果や今後の活動促進に向けた課題をお話頂いた。国際大学の信田グレチェン氏からは、毎年実施されている多文化コミュニティ事業「インターナショナル・フェスティバル」の事例をはじめ、事業実施に際しての具体的な問題点も含めて、留学生の多い大学の特色を生かした地域との連携及び様々な交流事業への取り組みをお話頂いた。各団体が期待に応えてくださった結果として、バラエティに富みながらバランスのとれた構成になったと考える。



(3) 「パネルディスカッション」

パネルディスカッションは、参加者のシンポジウムへの満足度を高める上で、胆になるものであった。留学生地域交流事業を実施している多くの団体が共通して抱えている課題として、「日本人学生の参加」、「外国人留学生の活躍」、「地域での連携」の3点を枠組みとして、パネリストをはじめ、会場全体で多様な視点を共有することに重点を置いた。埼玉大学の中本進一氏のファシリテーションのもと、壇上からは「多くの日本人学生が参加しやすいように、継続して定期的に事業を実施するとともに、SNS を活用して頻繁に情報発信をする」、「留学生に地域で活躍してもらうために、まずは留学生に対して幅広く地域活動への参加機会を提供することに加え、各種支援体制のさらなる充実が必要不可欠である」といった課題への意見が述べられた。また、会場からも異文化理解促進を目的とした留学生の地域住民との交流活動やホームステイ制度の事例など、留学生と地域がつながりを持つために、新規事業の立ち上げから事業継続に向けた取組みの紹介があった。そして、会場から壇上の各団体へ頂いた質問「助成を得て、よかったことは？」は、まとめとして時宜を得たもので主催者として大変、ありがたかった。説明を聞くだけでは消化不良になりかねない部分を、会話のなかで生まれるニュアンスや会場とのやり取りで幾分でも埋めることができたなら幸いである。最後に中本先生からの“Strive for One Team to go Global” という締めくくりのお言葉に、会場全体の意見の凝縮を感じる事ができた。



(4) 参加者数及びアンケートの概況

参加者数：69 名

アンケート回収数：42 件(回収率 60.9%)

シンポジウムへの満足：

満足 25 件(61%)、やや満足 16 件(39%)、どちらでもない 0 件、やや不満 0 件、不満足 0 件、

無回答 1 件(-)

主な意見：

- ・具体的な取組みの紹介が分かりやすかった。

- ・多くの好事例、また課題もふくめて話を伺うことができた。
- ・留学生だけではなく、日本人との双方向からのやりとりが大切であると分かった。
- ・問題点のあらいだし、それに対する対策などの話がきけた。

(5) 参考

留学生地域交流シンポジウムの資料は以下の URL にて公開している。

<https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryujiyou/symposium0221.html>

留学生地域交流シンポジウムの今後

今回、初めて、留学生地域交流シンポジウムを実施したが、国際交流や留学生支援に携わる関係者が集い、大変有意義な情報共有とネットワーク構築の場になったと考える。次年度以降は、東京国際交流館とともに「国際交流の拠点」である兵庫国際交流会館での実施も検討したい。これは留学生地域交流シンポジウムが、全国を対象とした事業である一方で、今回の参加者の約半数が関東地方からであったことにもよる（近畿地方以西の参加者は3割弱）。また、今回の事例紹介は、会議場での口頭発表のみであったが、ポスターセッションも設けて、より多くの事例紹介の機会とともに、直接、当事者間で質疑応答がしやすい環境を作っていきたい。

留学生地域交流事業への波及効果

2020年度留学生地域交流事業への申請は、令和2年3月6日に締め切られた。申請内容を含め、留学生地域交流シンポジウムの同事業の申請への影響を評価するのは、いかにも尚早ではあるが、留学生地域交流シンポジウムでの経験の共有が、ひとりひとりの各団体での日々の取組みへの励ましとなっていれば嬉しく思う。

また、同事業の予算にも限りがあることから、地域内での団体間の連携強化に資する先行事例についてネットワークを通じて学び、その先行事例を応用、昇華した事業の展開についても、大いに期待するところである。

今後も、引き続き、上記 URL の情報や本稿を留学生地域交流事業のみならず、国際交流や留学生支援の取組みに役立ててもらいたい。

おわりに

このイベントを企画している段階で、現場で国際交流や留学生支援に携わっており、このイベントを引き締め、牽引することができる教員の協力が必要不可欠と考えていた。もし、今回の留学生地域交流シンポジウムに対して評価を頂けたなら、その成果は、快くパネルディスカッションのファシリ

テーターを引き受けてくださった埼玉大学の中本進一教授のご尽力によるところが非常に大きい。また、各団体の事例紹介のひとつひとつから想いが感じられ、シンポジウムが一層豊かなものとなった。この場をお借りして、ご協力頂いた方々に、改めてお礼を申し上げる次第である。

また、今回の留学生地域交流シンポジウムは、新型コロナウイルス感染症拡大の懸念が急速に広がりにつつあるなか実施された。対策として、手指消毒剤を会場入り口に設置するとともに、体調不良の方向けのマスクを準備し、また、別室（プラザ平成 メディアホール）で会場の映像を見ながら参加できるようにするなどの配慮をし、最善と考えられる措置を施した上で実施した。実施から1か月以上が過ぎたが、いまのところ参加者の感染情報は無い。この留学生地域交流シンポジウム自体は無事に開催されたが、外国人留学生を支援する事業を展開し、多くの人々が集まるイベントを実施し、また、留学生宿舎の運営に関わる立場として、未知の感染症の流行等、非常事態への対応について、あらためて考えさせられるものとなった。

このような状況下、ご来場頂いた方々³に、改めて感謝申し上げるとともに、これを契機とした新たな特色ある取組みや関係者間のネットワーク構築が更に促進されることとなれば幸いである。

³ 国立大学留学生指導研究協議会（COISAN）の関係者の方々にも多くご参加頂いたことに感謝申し上げます。 <https://coisan.org/guide/organization/>